

さくら



令和8年10月26日(月)

体育大会に向けて

「稽古は本場所のごとく、本場所は稽古のごとく」 69連勝という大記録を打ち立て、「相撲の神様」と呼ばれた双葉山（ふたばやま・第35代横綱）の言葉です。
「稽古」を「練習」、「本場所」を「本番」と読みかえてみましょう。「練習は本番のごとく、本番は練習のごとく」
明日は体育大会予行、木曜日に本番を迎えます。ご来場いただいた皆様から、「力強く、美しく、感動的な体育大会だった」と感じてもらえるよう、練習についても全力で臨みましょう。

仏教に学ぶ

先週、保護者の方と話をする機会がありました。その中で仏教の話になり、お話をお聞かせいただく中で、「宗教もまた人の心を癒やし、豊かにするものだ」ということを改めて感じました。

その会話が心に残り、帰宅してから「仏教聖典」（仏教伝道教会発行）という本を久々に開きました。そこで目にとまったのが「十善戒（じゅうぜんかい）」という教えです。これは、人々が心穏やかに生きるための10の行動規範です。

この中の「言葉（口）」に関する4つの項目を皆さんに伝えます。

1 真実を語る【不妄語（ふもうご）】

「真実ではないことを言わない」「偽りの言葉で他人をあざむかない」ということです。正直であることは、他者との信頼関係を築く上で最も基本的なこと。いつわりの言葉は人間関係を崩します。

2 二枚舌を使わない【不兩舌（ふりょうぜつ）】

AさんにBさんの悪口を言い、BさんにAさんの悪口を言うような、人の仲を裂くような言動はいけません。AさんにもBさんにも双方の良いところを伝え、他者の人間関係を育むことが大切です。

3 優しい言葉を使う【不悪口（ふあくぐち）】

人の悪口を言ったり、汚い言葉で相手を罵（ののし）ったりしないということです。口から出た言葉は、取り消すことはできません。直接的な悪口だけでなく、皮肉や嫌味も人を傷つけます。相手の気持ちを想像し、思いやりのある優しい言葉を選ぶことが大切です。

4 心を込めて語る【不綺語（ふきご）】

相手に気にいられようとお世辞を言ったり、相手のためにならない無駄なおしゃべりをしない。言葉は、人と心を通わせるための大切なものです。本当に伝えるべきことを、心を込めて語ることが大切です。

これらはとても身近なことから、行えば利のあるものです。心に留めて実践してみましょう。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

